

## 第8回 教育課程編成委員会 議事録

1. 日時 平成29年3月8日(水) 13:30 ～ 14:40

2. 場所 下関福祉専門学校

3. 参加者 鳥居 紀子 ( 公益社団法人 日本介護福祉士会 理事 )

河田 洋治 ( 社会福祉法人 菊水会 次長 )

山本 美佐枝 ( 社会福祉法人 下関市社会福祉協議会 在宅福祉課長 )

関谷 豊 ( 下関福祉専門学校 校長 )

松岬 芳江 ( 下関福祉専門学校 教務課長 ) 司会

小池 真理子 ( 下関福祉専門学校 専任教員 )

平岡 慶介 ( 下関福祉専門学校 教務主任 ) 書記

4. 内容 (1)校長挨拶

学生募集はしているが苦慮している。生活支援金を給付されながら学べる環境であるが、その窓口で止められることもある。外国人のビザがあり、県の特別奨学金164万円の対象にもなった。社会福祉法人で受け入れ(宿舎と生活費)休日や長期休暇で就業し、卒後5年間は就業する方向で提携できるように考えていきたい。

(2)協議事項

1)平成28年度 教育目標についての評価

<教育目標>

①職業倫理に基づいた「自立支援」「利用者本位」の視点に立ち、多職種協働による尊厳を支えるケアの実践ができる

1学年

基礎的な知識・技術を身に付け、介護の根拠および個別性が理解できる

2学年

チームケアの必要性を理解し、心身の状況に応じた介護ができる

②アセスメントシートや実習記録等の記録が的確にできる

1学年

授業の中での記録物および実習の記録が的確にできる

2学年

実習中の日誌・介護過程の展開シートに的確に記録でき、ケーススタディでまとめて発表できる

③個別のコミュニケーション方法について理解し、コミュニケーション能力を身に付ける

1学年

基礎的なコミュニケーション技術を養う

2学年

利用者の心身の状況に応じた技法を習得する

<評価>

①について

1学年

座学では「自立支援」「利用者本位」の意味や個別性の大切さについて理解しているが、根拠が不十分なため実際に生活支援技術の演習や実習では生かされていない。また、学生によって個人差がある。

※「学生によって個人差がある」ことについて施設や事業所によって指導力に差があるということではなく、職員によって差はあることは否めない。学生の能力や理解力についての差が大きい。

## 2学年

専門職として必要な自立支援・利用者本位・尊厳の保持の理解とチームとしてアプローチすることの必要性、根拠が座学と施設実習を通して理解し実践できた。しかし、それが不十分な場面もあり、今後の課題として残った。

※「不十分な場面」の具体例として、学校ではプライバシーの保護や尊厳の保持を習って学生自身も理解しているはずだが、施設実習でカーテンを閉めずに排泄介助をしたり、職員が利用者に話すように口語的な言葉掛けをしたりしたことをさす。

### ②について

#### 1学年

情報からの想像、見極め、解釈、分析力に欠けており、的確までは到達していない。

#### 2学年

各記録に記載できケーススタディで発表することはできたが、主観的で曖昧な表現や収集した情報が記録されていないことも多く到達できたとはいえない。

### ③について

#### 1学年

傾聴することはできるが受容・共感といったコミュニケーション技術に繋がっていない。そのため、生活支援技術の演習や実習でも利用者の思いに副った声掛けが十分でない。

#### 2学年

座学で学んだことは理解していても実践では活かせていないことが多かった。しかし、実習日数を重ねる毎に受け持たせていただいた利用者を中心に他の利用者とも疾病やその時の心身の状況に応じたコミュニケーションが図れるようになった。

- ・介護過程の展開ができなければ介護福祉士ではない。介護過程を展開できなくてどうやって介護ができるか。学生にしっかり伝えなければならない。
- ・実習中の施設職員と教員間で学生の個別的な関わり方や指導方法について事前打ち合わせができるといいのではないか。
- ・実習中、わからないことや疑問を感じたことについては積極的に「訊く」ことが大切。そのままにしたり、勝手に解釈するからアセスメントがうまくいかない。介護福祉士は介護の中核になる存在故に根拠を示すことが大切。
- ・施設の職員からの見られ方(評価)を気にして話しやすい特定の職員から教えてもらってそのまま記録する学生が多い。

## 2)平成28年度 福祉と文化の実績報告

10/25(火) マジック

12/ 6(火) 昭和史

1/20(金) 着付け

2/ 7(火) 卒業生との交流

2/10(金) 介護予防

※基礎知識を学ぶ座学と、受ける側と実施する側の双方での演習を織り交ぜた内容

2/16(木) 園芸

2/20(月) 職業倫理

2/21(火) 普通救命講習

2/23(木) 生命保険について

※一社会人になるにあたっての基礎知識とリスクマネジメントについての今回初の試み

### 3) 来年度の課題

養成校に学生が集まらないことについて

- ・介護のイベントをしても来場者はゼロ。国から県に予算がおりても実質役立ってない。
- ・県立田部高校は平成29年度から介護職員初任者研修の科を廃止した。
- ・介護を目指すきっかけの多くは親や兄妹など身近な家族が介護の仕事に就いていること。
- ・小学校や中学校に出向くことが大切。
- ・外国人はベトナム人を検討の方向性。

### (3) 次回委員会の開催の日程について

平成29年7～8月の予定